

校友会 会報

Yamagata
University
Alumni
Association

ご挨拶

校友会副会長就任に寄せて

校友会副会長 山形大学教授 山川 光徳
(担当分野：医学)

平成 29 年 6 月 27 日付で、山形大学校友会副会長を拝命いたしました。会長・理事の先生方そして皆様と共に、微力ながら、山形大学及び校友会の益々の発展に貢献できますよう努力して参ります。

自己紹介を兼ねて、「病理医」の本業についてお話をさせていただきます。「病理診断」を行う臨床医を「病理医」と呼び、『病理解剖(剖検)』、『組織診断(生検および手術材料)』、『細胞診断』と言った「病理診断」を行います。『病理解剖(剖検)』はその死因、治療効果などを検証し、今後の医療に役立てられます。『組織診断』は、内視鏡や手術で採取(生検)された病変部の組織片を顕微鏡でみて診断したり、臨床診断を確認したり、病気の進展などを検証します。手術中に行う「術中迅速診断」は手術方針の決定に役立ちます。『細胞診断』では喀痰や乳腺などから細胞を採取して検査します。また、当医学部では国公立大学附属病院で初めて病理診断科外来を開設しました。良質な医療提供の一翼を担う為のもので、病理専門医が直接患者やその家族に会って、病理標本を示しながら、病理診断内容を説明し、質問に答えます。このような病理医の仕事内容から「病理医」は「Doctor's doctor」などと呼ばれています。一般病院でも勤務

している病理医がいれば、その名が院内表示されています。

平成 28 年 11 月 25 日(金)に校友会設立 10 周年記念事業が小白川キャンパスで開催されました。校友会 10 年の歩みを総括し、さらなる 10 年後とその先の校友会の未来を語る機会となりました。校友会が創設されて、まだまだ、浅い年月にも関わらず、学部横断的な現役生・卒業生・教職員の交流、優秀な大学院生の表彰、現役生の海外視察・留学、各学部などの学園祭、就職活動などへの多岐にわたる支援を実践して、山形大学の現役生と卒業生のマインド形成と自負心の醸成にインパクトを与えてきました。

現在の国立大学には、大学教育を通じて、社会で活躍できる優秀な人材(企業人、教育者、研究者、医療人など)をどれだけ世の中に送り出せるか、それによって地域に、日本に、そして世界に如何に貢献できるかが社会から問われています。社会に容認してもらえるほどの、あるいはそれ以上に光を放つ卒業生がどれだけ社会で活躍しているかです。母校が社会から求められている使命を果たす為に、校友会が果たせる、あるいは果たすべき施策に限りは無いと感じています。

校友会とは…

校友会は、山形大学の全ての在学学生と卒業生、役員、教職員、退職者等の会員(生涯会費 10,000 円)で構成され、山形大学の応援団として山形大学や山形大学の学生等を支援する全学的な組織として平成 18 年 12 月に設立されました。

山形大学OB & OGセミナーを開催しました

平成29年3月4日(土)に山形大学東京サテライト近くのグランパーク(東京都港区芝浦)を会場に開催しました。

このセミナーは、東京サテライトと校友会の共催で山形大学卒業生等首都圏ネットワークの後援を得て、今回で12回目の開催となりました。セミナーには、初参加の医学部卒業生をはじめ首都圏に住んでおられる80名を超える方に参加していただきました。

セミナーは、簡野あかりさん(農学部3年)の司会で進められ、最初に小山清人学長から山形大学の現況を含め挨拶がありました。次いで、中島宏准教授(人文学部担当)からは、憲法改正の今日的な問題等にスポットを当て、「憲法改正問題について知っておきたいこと」と題する講演と、古川英光教授(大学院理工学研究科担当)からは、「3Dプリンターで未来の暮らしはどう変わる?」と題し、3Dプリンターを取り巻く現状と近未来社会の姿を垣間見ることができる夢のある講演をしていただきました。

講演終了後には、校友会設立10周年に当たり、記念品として乾杯用に準備した山形大学オリジナルグッズ“塗り枡”に農学部附属やまがたフィールド科学センターにおいて栽培した酒米で醸造された「山形大学吟醸酒」が注がれ、野村一芳校友会副会長(ふすま同窓会会長)の音頭で乾杯が行われ、懇親会が始まりました。

卒業生の方々は、学部の枠を超えて山形の地酒を片手に和気あいあいと懇談され、会場は大いに盛り上がりました。最後に山形大学学生歌「みどり樹に」を全員で合唱し閉会となりました。

また、山形大学オリジナルグッズや農学部附属やまがたフィールド科学センターの生産加工品として、がくちょうせんべいをはじめ、山形大学吟醸酒“燦樹”、リンゴジャムなど計19種類が会場に持ち込まれ、卒業生の方々に沢山買ってもらいました。



セミナーの様子

▶ 次回のセミナーの開催は、平成30年3月3日(土)です。お楽しみに！



司会を務める農学部3年の
簡野あかりさん



小山清人学長の挨拶



三保壮一卒業生等首都圏ネットワーク会長
(東京ふすま会会長)の挨拶



物販の様子



講演する中島宏准教授



講演する古川英光教授



参加者全員による乾杯

平成29年度から校友会学生幹事を委嘱しました



委嘱状交付式



第1回ミーティングの様子

平成29年6月27日(火)の校友会理事会終了後に、小山清人学長から12名(うち3名欠席)の学生さんに「学生幹事」の委嘱状が交付され、激励の言葉がありました。

学生幹事とは、各学部2名の計12名が校友会事業のPR活動を行ったり、ミーティング等に参加し意見を述べたり、学生幹事による独自の活動も企画・実施するものです。更に、様々な校友会事業に参加し学生目線の報告もお願いしたいと考えています。

学長室での委嘱状交付式には、校友会副会長の野村一芳氏(ふすま同窓会会長)及び山川光徳教授(学術研究院〈医学部担当〉)並びに校友会の担当である大場好弘理事・副学長が立ち会いました。

交付式後には、第1回ミーティングを開催し、大場理事・副学長から歓迎の挨拶、引き続き校友会事務局から校友会の組織や活動状況についての説明を行いました。また、学生幹事の皆さんには、今後、学生幹事として活動するに当たり、校友会に関する情報の共有やこれからの活動内容等について意見交換を行っていただきました。学生幹事の皆さんの今後の活動に大いに期待しています。どうぞよろしくお願いします。

平成29年度の学生幹事は、次の方々です。

人文学部：富田奈菜美さん、山本有紗さん
理学部：平尾優汰さん、山口芽衣さん
工学部：加藤孝太郎さん、過足未紗さん

地域教育文化学部：松川 昂さん、三宅大誠さん
医学部：廣瀬和仁さん、矢口怜央奈さん
農学部：齋藤善哉さん、浅野 萌さん

先輩卒業生からのメッセージ

▶ 若手卒業生の会（首都圏）の幹事を務める先輩

佐藤 徳紀 さん

((株)ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所 研究員)
山形大学大学院理工学研究科博士後期課程システム情報工学専攻 平成24年修了

若手卒業生の会（現在の名称：首都圏若手卒業生の会（仮））は、首都圏在住の山形大学の卒業生が中心となり、卒業生同士のネットワーキングを目的として平成27年7月に発足しました。現在、facebookの非公開グループへの登録者が70名近くいます。

主な活動内容は、年末頃に山形大学の先生を招いて行う同窓会です。（写真は、昨年12月に行われた第2回の様子。）卒業生同士の交流に加え、大学で現在人気のある先生や受けてみたい分野の専門の先生をお招きして、模擬授業を開催しています。

また、平成29年2月には、山形大学の就職セミナーを受講している在学生200名あまりに対して、首都圏若手卒業生の会メンバーの立花さんと私の2名が就活生の先輩として、お話をさせていただきました。平成28年度は小白川キャンパスのみでしたが、平成29年度は鶴岡や米沢の両キャンパスも訪問する予定です。

【首都圏に就職を考えている在学生や首都圏在住の卒業生のみなさまへ】

首都圏若手卒業生の会は、参加メンバーを募集しています。メンバーの間の情報共有は主にfacebook groupを用いていますので、ご興味のある方はグループにご参加ください（<https://www.facebook.com/groups/yamagata.u.obog/>）。もしくは、山形大学校友会事務局にメール（ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp）にてご連絡ください。また、これまで開催された『若手卒業生の会』の様子は、校友会HPで見ることができます。



出席者全員による記念写真



班別演習

▶ 卒業生講演会のシンポジストを務めてくれた先輩

平成28年11月12日（土）に米沢工業会と校友会の共催により、小白川キャンパスで第4回卒業生講演会を開催しました。その際にシンポジストを務めていただいた4名のうち、3名の方から後輩学生への応援メッセージを寄稿していただきました。



園部 祥さん（左端）
（田宮印刷（株））

大学院社会文化システム研究科修士課程
文化システム専攻 平成27年修了

私は、自分の大学生生活を振り返って特に頑張ったと胸を張れることはあまり多くはありません。しかし、今となって、営業としてお客様とお話ししているときなど、思わぬ場面で大学生活での経験やそこで得た力が役に立つことがあります。それを実感したとき、初めて私の山形大学での日々は充実していたと気づきました。そして、思い返してみると、その力は大学生活での様々な「出会い」によって身についたものだと思います。普段の生活では気づき難いですが、今、皆さんの周りには様々な「出会い」が溢れています。

先輩卒業生として在学生の皆さんに伝えたいことは、「出会い」を大切にしてくださいということです。皆さんなら、そこから学び、自分を成長させる力が備わっていると思います。いま身につけた力は、今後様々な場面にとっておきの武器になるはずです。

これからの皆さんに素晴らしい出会いがあることを心より願っております。



高橋 洋人さん
（リコーインダストリー（株））

大学院理工学研究科博士前期課程
機械システム工学専攻 平成26年修了

山形大学で学生時代を過ごした私が後輩の皆様に伝えたいことは、大学生活においては是非広い視野を得ること、またこの時間を有意義なものとするために、様々なことに挑戦して欲しいことの二点に尽きると 생각합니다。1点目は、自分の選んだ専門や研究に積極的に関わり、趣味や友人たちとの交流も大切にして欲しいと感じます。学業としての基礎的な知識をしっかりと養い、プレゼンなど報告機会の経験を多く積んでいくことは、とても重要で卒業後も大いに活かせることですが、自ら意識して行った経験こそ広い視野を得る根幹だと考えています。

2点目は、是非学外に出る機会を得て欲しいと思います。私の場合は、多くの人の陰で幸運にも海外インターンシップに参加することができました。そこから得られた言葉や文化の知識、様々な考え方をを持った人々と出会った経験は、改めて自分に自信をもたらし、物事の捉え方に幅を持たせてくれたと実感しています。

陰ながら皆様のご活躍を期待しております。



パン カム タンさん
（富士古河E&C（株））

大学院理工学研究科博士前期課程
ものづくり技術経営学専攻 平成22年修了

新入生の皆さん、改めて、入学おめでとうございます。

大学での生活は、高校とは違い自由に過ごしていると思いますが、いかがですか。

また、講義の選択、資格の勉強、サークル活動やアルバイトなどすべて自由になり、これまで以上に活動の幅が広がっていることでしょうか。

家族の元を離れ、誰にも注意されない、あっという間の4年間です。私も振り返ってみると、楽しい思い出が沢山ありますが、「興味を持ってチャレンジすれば良かった！」という後悔は少なくありません。一度きりの学生時代をぜひ大切に、多くを学び精一杯体験できるよう、自分の夢に向かって迷わずに進んでください。きっと楽しい大学生活そして心からの充実感を味わうことができると思います。

留学生の皆さんにとっては、日本の文化は独自性があると思います。慣れるまでに時間が掛かるかもしれませんが、でも、慣れない環境の中で、時には悩み、新しい発見に小さな喜びを感じると思います。皆さんが楽しく素晴らしい留学生活を送れるよう願っています。

平成28年度 校友会支援事業の紹介

平成28年度において実施された校友会支援事業及び校友会主体事業は次のとおりです。
実施された事業の一部(◎印)を写真付きで紹介します。

修学支援事業

- 実践教育プログラム英語宿
- 山形美術館を活用した学生の学習支援事業
- ◎ 校友会推薦図書コーナー「後輩には是非、こんな本を読ませたい！」(写真1)
- ◎ 山形大学校友会大学院学生表彰制度(写真2)



10月(八峰祭)に小白川図書館で選書サポーターズの学生さんが選んだ推薦図書(402冊)を用いてのビブリオバトル(学生書評コンテスト)を実施しました。



18名の校友会会長賞受賞者に対し、2月の校友会理事会終了後に校友会会長である小山清人学長から一人ひとりに表彰状と奨励記念品(5万円)が授与されました。

グローバル化支援事業

- ◎ 大学間交流協定大学への派遣留学生校友会支援事業(写真1)
- 新興国学生大使派遣プログラム
- ◎ 博士課程学生研究発表奨励事業(写真2)



留学を目指す学生には大きな励みとなっており、11ヶ国13大学19名の派遣学生に支援金を贈呈しました。



国内外の国際学会で発表を行う延べ56名の大学院生に支援金を贈呈しました。

課外活動支援事業

- ビーチサッカー大会 in 庄内
- 各キャンパス大学祭への支援
- ◎ 公認サークルへの支援(写真1)
- ◎ 山形大学雪合戦大会支援(写真2)



全国大会に出場した14の公認学生サークルに17件の遠征費等を支援しました。



2月に工学部グラウンドで開催した雪合戦大会の実施経費を支援しました。当日は飯田キャンパスから1チーム、米沢キャンパスから7チームの計8チームが参加し熱戦を繰り広げました。

就職活動支援事業

- ◎ 首都圏開催合同企業説明会への参加と東京サテライト案内(写真1)
- ◎ 学生が中心に行う優良企業訪問への支援(写真2)
- 首都圏就職活動時のセカンドキャンパスの整備
- 本学OB・OGから学ぶ業界・仕事研究セミナー



3月に開催された首都圏開催合同企業説明会に参加した学生(78名)のためにバスチャーター経費等を支援しました。



学生が優良企業を訪問するための旅費及び報告書作成経費を支援しました。4日間にわたる日帰りの日程で48名の学生が参加しました。

大学・社会貢献活動支援事業

- ◎ 高齢化率の高い離島における継続した東日本大震災復興支援事業(写真1)
- 科学で東北盛り上げ隊
- ◎ オペラを核とした《附属校との協働》及び《高大連携事業》の推進(写真2)
- 子どものまち・いしのまき復興支援事業



宮城県塩竈市浦戸桂島における復興支援のための事業に参加した学生の旅費及び復興活動経費を支援しました。



3月に山形中央公民館ホールで開催したオペラ公演に係る舞台装置等の製作経費を支援しました。

会員相互の交流支援事業

- ◎ 新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会(写真1)
- 卒業生等による学生支援体制の整備
- 卒業生講演会
- ◎ 卒業生の「人財バンク登録事業」を活用した学生支援事業(写真2)
- 若手卒業生の組織化支援



新入生の保護者(204名参加)に交流を深めていただき、更に大学の運営や教育研究内容等を理解して貰うために開催した実施経費を支援しました。



校友会の「人財バンク」に登録された卒業生が後輩学生に「就職支援特別講演会」等を11月に実施し、その際の謝礼と旅費を支援しました。



事業に参加した学生の皆さんからのメッセージ

校友会大学院学生表彰制度（校友会長賞）



大学院農学研究科 2年
伊藤 絵里香 さん

土木学会東北支部技術研究発表会で
(前列左)

私は、学部3年次に研究室に配属されてから、今まで「養殖牡蠣のウイルス汚染に関する研究」に取り組んできました。牡蠣は餌を食べるために日々大量の海水をろ過していますが、その過程で海水中の病原ウイルスも体内に溜め込んでしまうことが知られています。私は、実際の養殖場で牡蠣にウイルスがいつ・どれくらい蓄積するのかを分析し、周辺の感染性胃腸炎の流行状況と比較しながら考察を行っています。

修士課程に進学した昨年には、卒業論文の内容をもとに学術雑誌への論文投稿や国際学会での発表を経験しました。特に苦労したのが、国際学会においての口頭発表でした。英語でのプレゼンテーションは初めての経験でしたが、指導教員である渡部徹教授と浦剣助教の温かいサポートを受け、何度もプレゼンテーションの練習をした結果、何とか無事に終えることができました。

このような研究活動の実績が評価され、この度、山形大学校友会より校友会長賞をいただくことができました。

自らの頑張りが目に見える形で評価されたことが大きな自信となり、現在の修士論文研究の支えとなっています。どうもありがとうございました。

実践教育プログラム英語合宿



人文学部 2年
渡辺 満里奈 さん

英語合宿の発表グループ（右端）

英語合宿での2日間は、とても楽しく充実したものでした。この合宿は、日本人学生と留学生が互いに英語でコミュニケーションを取り合い、ある一つのことを成し遂げる過程の中で楽しみながら英語力を向上させていくという、生の英語に触れたい学生にとっては嬉しいプログラムでした。具体的には、留学生を含む5、6人でグループを作り、英語でのプレゼンテーションやそれに向けた調査などを行いました。

また、その他にも、夜は先生が持ってきてくださったボードゲームをしました。このボードゲームには、とても様々な種類があり、それらのルールを英語で説明してもらったり、実際にゲームの中での会話を英語でしたりすることにより、以前よりも英語を話すことに抵抗を感じる事がなくなりました。

普段、自分一人だけで英語を学習しているだけではできない経験をこの合宿ですることができます。机上のみの学習ではなく、事上磨練を意識した学習が語学を身につける上で最も大切なのではないかと私は考えます。

この合宿に参加したことで身につけた力を活かせば、その後も楽しく学習を続けることができるのではないのでしょうか。

首都圏及び大学主催合同企業説明会 参加比較支援事業



地域教育文化学部 4年
皆川 結 さん

就職活動と一緒にがんばった仲間と
(左上)

いいスタートを切れているだろうかと心配しながら迎えた「就職活動解禁」の3月1日。タイミングよく、私は3月3～4日の校友会支援事業東京合説バスツアーに参加させていただきました。初めての合同説明会参加。私は、その会場で、全国から集まる多くの就活生を目にして、本格的な就職活動の始まりを実感し、気持ちが引き締まるのを感じました。

また、朝食や温泉などツアー内容も充実し、同級生や友達と楽しめる時間も確保でき、気分が和らいだのを覚えています。

その時から、希望職種で内々定を受け取るまでの間は、企業、仕事について学び、「自分に合った職種」、「どのような会社で自分は必要とされるのか」を悶々と考えました。また、書類の作成や面接を通して、自分をどう表現するかも鍛えられました。選考が進むに伴い、企業からの結果連絡を受けて、喜んで落ち込んだりを幾度も経験しました。でも、自分はやることをやっている、ご縁の無い企業があるのも当然だとポジティブに考えて前に進めました。すべては、合説バスツアーで抱いた覚悟からであったと思います。

校友会の支援に本当に感謝しています。今後とも、ご支援の程よろしくお願い致します。

科学で東北盛り上げ隊



理学部 2年
山口 芽衣 さん

イベントで子どもたちと実験をしている様子（右手前）

私は、「科学で東北盛り上げ隊」として石巻やイオンモール三川、青少年のための科学の祭典、科学祭りin鶴岡のイベントに参加しました。これらのイベントは、山形大学SCITAセンターの学生スタッフ以外に他大学や一般の団体も参加し、主に子ども向けの科学実験ブースを出展しています。

学生スタッフのみで参加するイベントは、小規模で近場のものが多いのですが、校友会から支援を受けているこれらのイベントでは、山形から離れたところでも大規模に開催することができるため、より多くの人に科学を楽しんでもらうことができました。

また、学生スタッフにとっても、普段の活動では山形大学の学生以外の人と話す機会があまりないため、このようなイベントに参加することで科学ボランティアをしている他の団体の人達と交流して情報交換をすることで、新実験開発に役立てたり、科学ボランティアの意義や楽しさを再発見できる良い機会になっています。

支援していただいた校友会への感謝の気持ちを忘れず、もっと多くの人に科学の楽しさを伝えようと同時に、科学ボランティアを通して自分自身が成長できるように、より多くのイベントに積極的に参加していきたいと思っています。

平成29年度 校友会支援・主体事業

平成29年度校友会支援・主体事業として採択した27件の事業は次のとおりです。

I 校友会支援事業

〈継続事業〉

1. 大学間交流協定大学への短期派遣留学生校友会支援事業
2. 各キャンパス大学祭への支援
3. 公認サークルへの支援
4. 博士課程学生研究発表奨励事業
5. 実践教育プログラム英語合宿
6. 校友会推薦図書コーナー「後輩には是非、こんな本を読ませたい！」
7. 山形大学雪合戦大会支援
8. 新興国学生大使派遣プログラム
9. 学生中心に行う優良企業訪問への支援
10. 首都圏就職活動時のセカンドキャンパスの整備
11. 科学で東北盛り上げ隊
12. 本学OB・OGから学ぶ業界・仕事研究セミナー
13. 山形美術館を活用した学生の学習支援事業
14. 子どものまち・いしのまき復興支援事業

〈新規事業〉

1. ビーチサッカー大会 in 庄内
2. 首都圏及び大学主催合同企業説明会参加比較支援事業
3. 山大学生による山形大学のための情報発信プロジェクト
4. 障がい学生に特化したキャリア支援
5. オペラの教育機能を活用した《附属学校との協働》及び《高大連携事業》の推進
6. 農学部創立70周年記念式典における卒業生によるリレー講演

II 校友会主体事業

1. 山形大学卒業生講演会
2. 山形大学校友会大学院学生表彰制度
3. 卒業生の「人財バンク登録事業」を活用した学生支援事業
4. 校友会会員となった新入生への入会記念品の贈呈
5. 若手卒業生の組織化支援
6. 卒業生と大学・学生との連携推進事業
7. 校友会「学生幹事」による校友会PRと自主的な活動支援

平成29年度 校友会役員紹介

役 職	氏 名	推薦部局等	役 職	氏 名	推薦部局等
会 長	小山 清人	山形大学長	理 事	松田 友美	樹氷会（医学部看護学科）
副会長	野村 一芳	ふすま同窓会（人文社会科学部・理学部）	〃	山崎洋一郎	一般社団法人米沢工業会（工学部）
〃	山川 光徳	医学部	〃	齋藤 博行	鶴窓会（農学部）
理 事	坂上 満	人文社会科学部後援会	〃	大場 好弘	山形大学理事・副学長
〃	安達 亨	地域教育文化学部後援会	〃	是川 晴彦	人文社会科学部
〃	佐藤 圓治	理学部後援会	〃	竹田 隆一	地域教育文化学部
〃	小林 公	医学部医学科後援会	〃	鷗浦 啓	理学部
〃	推名 正美	医学部看護学科後援会	〃	佐藤 学	工学部
〃	長谷部利信	工学部後援会	〃	小笠原宣好	農学部
〃	菅原 眞一	農学部後援会	〃	成田 博昭	事務職員
〃	木村 康二	地域教育文化学部同窓会	監 事	佐川 馨	
〃	山下 英俊	蔵王会（医学部医学科）	〃	内田 勝男	

校友会への入会案内

山形大学校友会に未だ加入されていない卒業生の皆さまへ（お願い）

校友会は、本学学生の修学、課外活動及び就職活動並びに全学的なキャンパス間の交流活動の支援を行うと共に、会員相互の親交を図り「山形大学コミュニティ」の醸成や強化に資するために様々な事業を展開しております。

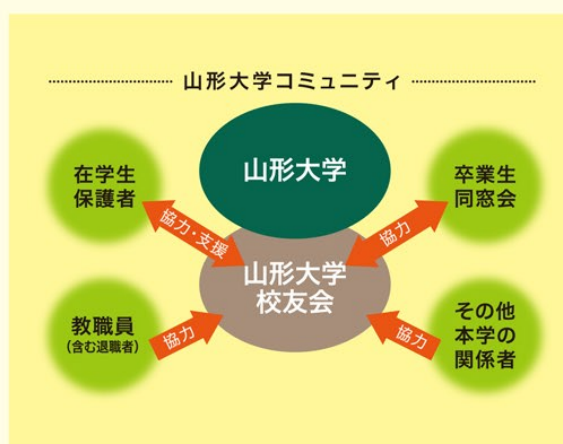
具体的な事業は、前述のとおりですが、これらの事業は、本学の在学生、卒業生、役員、教職員及び本会の趣旨に賛同していただいた会員の生涯会費により実施させていただいております。

ついては、より多くの皆さまに、是非ご加入をお願い申し上げます。

会員（除く入学時加入会員）の方には、定期的に校友会会報や大学の様々な広報誌を送付させていただいております。

入会申込手続き： 払込取扱票に必要事項をご記入いただき、『郵便為替』により生涯会費1万円をお振り込みください。（払込取扱票は、校友会事務局にありますので、ご連絡ください。）

入 会 日： 会費の納入により入会とさせていただきます。



山形大学大学歌

作詞：石先 麻美・難波 千鶴
作曲：大谷 靖夫
編曲：中村 康就

山形大学大学歌は、平成21年に創立60周年を記念し、歌詞の募集を行い、当時地域教育文化学部4年在学中の石先麻美さんと難波千鶴さんの作品が選ばれました。作曲は山形市出身の作曲家大谷靖夫氏に依頼し、平成22年3月に本学大学歌として制定されました。

※この事業は校友会の支援により実施されました。



大学歌
ダウンロードは
こちら

大学のホームページからも
ダウンロードができます。

- 1 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学
- 2 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学
- 3 はるかなる 未来を照らし
流れる川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学



山形大学学生歌「みどり樹に」

作詞：菅原 威
作曲：橋場 富蔵

山形大学学生歌「みどり樹に」は、昭和33年全寮々歌として現在でも永く歌い継がれている学生歌です。

宮下(旧姓・菅原)威さんの作詞、「歌いやすい旋律」をめざして作曲されたのは橋場富蔵さん。お二人とも旧教育学部の卒業生です。

- 1 みどり樹に 風がながれるように
さわやかな 若人のうたごえ
遠く海を越えて ひびくよ
世界の果まで われらの歌う 口唇に
友情の血潮は あふれる
- 2 大地から 草が萌えでるように
たくましい 若人の生命は
高く峯を越えて
世界の果まで のびゆく
われらの輝く ひとみには
平和のねがい みなぎる
- 3 大空に陽が 輝くように
かぎりない 若人の夢は
はるか雲を越えて
世界の果まで とどくよ
結んだ腕で 新しい
未来を築く われらよ



※「山形大学大学歌」と学生歌「みどり樹に」は、
YouTubeでもお聴きいただくことができます。

校友会メールマガジンの配信及び山形大学や学生への応援メッセージ募集

- 校友会では、山形大学や校友会に関する様々な情報を提供するため、校友会メールマガジン「みどり樹通信」を毎月配信しています。メールマガジンは、校友会ホームページ上から簡単に申し込みができます。
- 卒業生の皆さまからの寄稿を広く募集しています。山形大学や在学生への応援メッセージ、学生時代の思い出など何でも結構です。

※ご寄稿いただける場合は、校友会事務局までお知らせください。

メールマガジン

山形大学校友会メールマガジン登録

「山形大学校友会メールマガジン」への登録を行います。
入力いただいた個人情報は、メールマガジンの配信のために使用し、他の目的には使用いたしません。
山形大学校友会における個人情報保護の取扱いについては、「個人情報保護の取扱いについて」をご覧ください。

上記内容について同意いただける、下の登録ボタンからメールマガジンの登録を行ってください。

同意して登録

編集後記

校友会は、昨年設立10周年を迎え、今年度から新たな10年に向けてスタートを切りました。そこで、校友会の運営に在学生の皆さんの意見をより多く取り入れるため、今年度から「学生幹事」を委嘱しました。学生幹事の皆さんから斬新なアイデアをいただき、より一層充実した活動を行っていきたくと考えています。
引き続き、皆様方のご理解とご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

山形大学エンrollment・マネジメント部

山形大学校友会事務局

〈校友会ホームページ〉<http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12

TEL:023 (628) 4867 FAX:023 (628) 4185

E-mail:ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp